



京都教区時報

第55号

発行所
京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室 (Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

特集 — 時報復刊一周年

今月の小教区の頁 — 衣笠教会

内部対話の輪をひろげて

「カトリック新聞」購読へ

京都司教 田中健一

「第11回世界広報の日」を機して、私たちの京都教区時報が復刊されましたが、丸一年が過ぎました。

読者のみなさんは申すに及ばず、編集印刷の労を担当して下さった教理センター、スタッフ、その他関係各位に厚くお礼申し上げます。と思います。そして今後共、よろしくご協力したいと思います。

この間、教区時報復刊を機して、というわけではないですが、小教区のレベルでも小教区報のようなものがそれぞれの工夫と努力によって整備、活発化されていることを巡廻しながら体験し大変うれしく思うとともに何かにつけて励まされたりしております。

現代世界は色々な分野で、しかも極めて早いスピードで、それぞれの道を走り続けられています。「神の国」の福音を告げ知らせる教会も例外ではないと思います。教会は、現代社会にあつて自分の使命をどのように果たしていったらよいか第二バチカン公会議の指針に沿って聖霊の導きを仰ぎながら努力しております。この全世界の教会との連帯において、私たち教区共同体も眼を教区内にのみ向けるのではなく、日本全体の教会、アジアの教会、全世界の教会の生き方についても目を

向けなければならないと痛感いたします。

このための最も具体的な方法として、日本司教団の責任のもとに発行されている機関紙「カトリック新聞」を是非購読されるようおすすめいたします。昨年は内部対話を願って教区時報と申し上げましたが、今年は外部との対話とまでは行かず、内部対話の輪を広げることかも知れませんが、理想としては一家庭一部ずつの「カトリック新聞」購読を希望しております。これを窓口として、私たちは、不十分かも知れませんが、教皇様のメッセージ、世界の教会、アジアの教会、日本の教会の様子を少しでも伺うことが出来ると思えます。

今年の第12回世界広報の日のテーマは、「受け手の教育」でしたが、広報と福音宣教とは申すまでもなく大きなつながりを持ち、大切な問題です。取り組むべき沢山の課題があります。でも取り敢えず今年は、「カトリック新聞」をとり上げました。カトリック新聞をも私たちの手で育ててゆきたいものです。



▽五月十五日①～十八日④

メリノール宣教会総会 於・東京

▽五月二十一日①

親交会 於・西院教会

▽五月二十二日① 午後二時

マンティカ師追悼ミサ 於・河原町教会

▽五月二十三日④～二十七日④

司教協議会総会 於・中央協議会

▽五月二十七日④ 二時

平和大学講座 於・カトリック会館

▽五月二十八日① 六階

▽五月二十八日① 十時～四時半

西大和教会献堂式

▽五月二十九日①～三十一日④

三重県壮年大会 於・久居教会

▽五月二十九日①～三十一日④

青少年司牧担当司祭会議 於・熱海



教区短信

▽六月十一日①

彦根教会復興三十周年

▽六月二十八日④ 午前十一時～ミサ

古屋司教司祭叙階金祝(司祭による祝い) 於・河原町教会

▽七月二日① 午前十時半～ミサ

古屋司教司祭叙階金祝(教区レベルでの祝い) 於・河原町教会

▽七月十日① 十時

司祭評議会定例総会

於・カトリック会館六階

古屋司教

金祝近づく

京都教区誕生と共に教区民と共に歩まれた古屋司教の叙階五十年の記念が、来る七月二日行われる。

戦前、戦後の混乱期を教区のために献身されたことは、時報連載中の「芽生え」でおなじみである。

記念式典は、まず六月二十九日のベテロパウロの祝日に司祭達により河原町教会で行われる。七月二日④当日は、パチカン駐日大使の臨席のもとに教区レベルで金祝の記念ミサと、祝賀会が行われる予定であるが多数の信徒の皆様の参加を期待している。



京都府北部カトリック

壮年連合会結成

京都府北部にある12教会はいづれもレデンブートル修道会の神父方によって司牧され、それぞれの教会は独自の特色をもって今日に及んでいる。

今年2月はじめ、当修道会キャンベル管区長の指導を得て、キリストの共同体

として当地方の教会が発展するためには、信徒の中心である壮年が横の連がりをもつて活動することが必要であると話され、連合会を結成すべく準備をすすめていた折、田中司教が当地方を訪問、各教会の信徒代表に信徒使徒職と連合組織の結成を示唆され、急速に設立気運が高まった。4月16日、西舞鶴カトリック教会ホールで、来賓にカール師を迎え、11教会34名が出席して設立総会を開催したのである。

総会は、経過報告、規約審議に始まり次の役員を満場一致で選出した。

会長 伊藤武志(西舞鶴)

副会長 梅田作治(網野)

事務局 梅原 馨(綾部)

常任委員 右3名の他各教会から1名
次期、常任委員会で事業計画を種々討議するが、各教会は距離的にも離れ、また、今後の会の運営について、主任司祭との理解と協力なくては会議にも出席できない実情が述べられ、前途は必ずしも楽観的な見通しでないと感じた。

しかし、日頃、顔なじみの薄い信者が一同に介して悩みを語り、布教活動に連帯をもとうと決意したことは有意義であった。終わりに、レデンブートルの口ザリオの歌を声高らかに斉唱して総会を閉じた。

京都府北部カトリック壮年連合会

事務局 梅原 馨

教区内男女管区長の集い

教区内に会員の多数を派遣している男女管区長の集いが4月21日夕方メリノール・ハウス(唐崎)で開かれた。出席者はラッキー師(メリノール)、ラバディ師(ヴィアートル)、ウィックス師(マリスト)、リベロ師(ピアリスト)、Sr.和田(ND教育)、Sr.シャーリン(ウィクタ)、Sr.ヘフロン(カランドレッド)、Sr.小野(女子メリノール)、Sr.鈴川(善きサマリア)、Sr.安藤(ヌヴェール)と田中司教であった。

今年度の議長ラバディ師によって進められ、各グループの過去半年間の人事、宣教司牧、教育社会活動などが報告された。今回は最近管区長に新しく就任した方が数名あり初顔合わせ的な色彩が強かった。

時間の都合で充分話し合うことが出来なかつたが、終りに「修道会側として教区に対し可能な経済的お手伝いについて」の議題については教区側からその第一歩として会計収支の報告が行われて実情が紹介された。そして次回の議題で「福音宣教」と一緒に取り扱われることになった。

尚この集いは一九七三年秋から年二回づつ続けられ、今回は丁度10回目であった。種々の異つた形ながらも同じ教区内で神の国の宣布を完成に召され、応えようと努めている仲間同志が司教を中心に交流を密にすることは教区共同体連帯のためにも有益且つ大切なことだと思われる。

人事移動

- △唐崎主任 ゴダード師(河原町助任)
- △名古屋教区へゴールマン師(唐崎主任)
- △大和高田主任 ウオルシユ師
- (登美ヶ丘主任)
- △登美ヶ丘主任 T・グリーン師(帰国)

マンティカ師

急逝



去る4月28日、メリノール会司祭、トマス・J・マンティカ師は、アフリカのスーダン・マラカルの上空で飛行機事故で急逝した。師はスーダンの仕事を終り再び来日し「希望の家」で働くことを予定された折でもあり、メリノール会はもとより京都教区、そして社会福祉関係の人々からもその死をいたむ声が多い。

師は、一九三十年7月20日米国のニューヨーク、アルバニに生まれ、49年メリノール会に入会、58年叙階と共に来日、日本各地の主任司祭を歴任、及びメリノール会管区役員としても活躍、後半は「希望の家」の所長として食しい人々のために尽力した。一九七六年4月アフリカ・スーダンにメリノール会員四名と共に命を受け着任、スーダン司教のもとに司牧典礼センター開設、リーダー養成に力を入れた。一九七六年一月号の「布教」誌に「日本から司祭、修道者が他の国に宣教に出て行くようになってこそ日本の教会は本物といえる」と師は述べている。

第五回

三重県カトリック信徒大会

隔年開催をしている三重県カトリック信徒大会は、今年で第5回を迎え、メインターマに「主とともに語り、励まし、わからあおう」を掲げ、共同体としての意識をより強く求めるため、4月29日に津市の聖ヨゼフ女子学園体育館で開催された。

小雨模様の中を県下から代表信徒300余名が集まり、まず、第二体育館で田中司教と12名の司祭の共同司式によるミサにあずかり、厳しゆく祈りと、テーマにそった信徒の歩み方と励ましの説教をうけ、全員が大会参加の意義をかみしめ、それぞれに思いを新たにしたのである。



正午前に会場を第一体育館に移し、持参の弁当で昼食をとむにしてから、青年たちが準備と進行のすべてを担当した室内ゲームを展開、幼児から老人まで和氣あいあい、県下を北と南の紅白対抗で優勝トロフィーをかけ、声援に力を合わせて楽しんで、午後3時半ごろ司教様の祝福をうけて全員散会した。

なお、献金2万余円を尾鷲教会「あかつきの家」援助に贈呈した。

京都南隣接教会運動会

五月三日、聖母女学院グラウンドにおいて、伏見、桃山、宇治の三教会と田辺、精華、八幡、青谷等隣接教会の運動会が約三百五十名の出席のもとに行われた。

当日快晴に恵まれ、田中司教主式のもとに共同ミサが午前十時より体育館前で行われた。後直ちに運動会に入り、三教会と合同チームの計四チームの対抗で競われた結果、高校生グループの活躍のめざましかった宇治が第一位、第二位に桃山、三位伏見、四位合同の順となり司教杯は宇治教会に手渡され四時頃終了。この催しは隣接する教会の親睦と一致のために計画されたもので、春と秋に夫々一回ずつ、レクリエーション的なものと文化的なものをおりまぜて行われる様である。競技は同じ信仰をもつ者同志の兄弟的なごやかさで終始し、中には眼の悪い子の手を引いて走ってあげる女の子の姿等も見人の心を感動させた。

尚この様な成功の陰には準備のため、努力を惜まなかつた役員が努力があった事を忘れてはならない。(土台(ペトロ)がしっかりとしているとすばらしい教会、が建つ)

中学生 ハッスル!

京都教区中学生合宿

中学生の合宿は、今回で早や7回目を迎えた。一回目の合宿のときに一年だった人も卒業してしまい、年月の流れをつ

くづく感じざるを得ない。

今回も例年通り、宇治のくつわ池青少年山の家に於て、4月3日から5日まで3日間行われた。今回の合宿は、いつもの20数名を大幅に上回る、40名余りが参加、リーダー、炊事班を合わせ、50名余りの例年になくにごやかな合宿となった。中学生は8、9名づつ5班に分かれ、リーダーが各一人づついて聖書研究、討論会、ゲーム等が行われた。

一日目の夜は映画「アリの町のマリア」を全員で観賞し、また三日目にはハイキング、飯ごう炊さん、野外ミサが行われ宇治教会で解散した。

今回は人数が多く、大変にごやかで明るい合宿だったが、その割にはよくまとまり、大した事故もなく、これも神様のお恵みと、心から感謝している。

右近 子供祭

奈良県

すがすがしい五月の空の下、急勾配の山道を額に汗し、黙想しながら登る巡礼者の列が続く。

五月五日の子供の日に例年の右近祭が榛原町沢城跡で五百人近い参加者の熱心な祈りのうちに行われた。

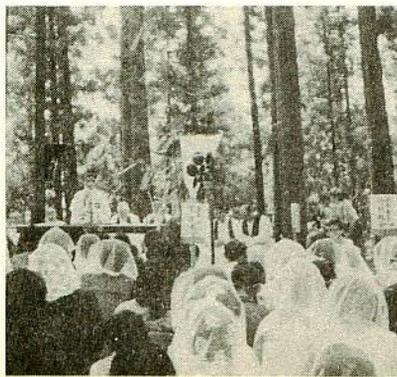
山上の祭壇、司祭のためのイス、花入れ等は、信者の手製による青竹で作られた周囲の杉木立と良い調和をなしていた。この日のミサの間四名の堅信式が田中司教の手で行われ、右近の後に続く信仰者として、その決心を新たにされた。

前もって県下の教会に呼びかけていた俳句も多数集まり、祭壇の両側の笹竹に

結んで奉納した。終りに高山右近の家紋入りの手旗を振って「よろこびの旗」の歌を何度もくり返し歌い感激のうちにミサを終了。午後は、下山して場所を変え、まず右近記念碑の前で碑の祝別と右近を研究している八木教会の中ノ瀬義文氏、「強い信仰に生きた右近の生涯」についての話があり一同心打たれた。

昼食後、ふるさと句会、子供達の小運動会、野点も行われ、参加者一同心身共にくつろいだ一日であった。

今年は八木教会が主体となつて準備をすすめたが来年度は奈良県全体の行事として行う予定である。



安土セミナリヨ記念ミサ

去る四月三十日、晴天に恵まれた安土セミナリヨ史跡公園で今年も記念ミサが捧げられた。田中司教をはじめ県下各司祭の共同司式でミサが行われ、約三百名の信徒が参加した。外人の姿も見られ、共に先人達の宣教の熱意に思いを馳せた。

お知らせ

第二回 結婚講座

日時 六月四日①～二十五日②各日曜日
午後一時半～三時
場所 大津カトリック教会
大津市馬場二一四一六

講師 四日 光吉正憲氏(滋賀大・滋賀女子短大講師・小児科医)
「育児の心講え」

十一日岡村祐氏(京都府立医科大産婦人科医)
「平和な家庭生活を営むために」

十八日ライリー師(草津カトリック教会主任司祭)
「聖書と結婚」

二十五日中里秀男(奈良県立医科大學講師、北摂病院副院長、内科医)
「私はこのような結婚生活を送ってきた」

申込方法 当日受付にて
受講料 千円(四講座)三百円(二講座)
主催 滋賀県カトリック連合会

夏季教会学校 教師研修会

教師研修会

日時 8月10日④～12日⑤
講師 梶川宏師(マリア会司祭)
上田次郎(劇団ジロー責任者)

主催 京都ブロック教会学校教師会
場所 洛星高校宗教研究室

申込先 教理センターアネックス

第二回

ボランティアスクール

ボランティア経験者、志望者、福祉問題に関心のある方のために。
主催 社会福祉法人カトリック京都教区カリタス会

日時 五月十日④～六月二十一日⑤
午後一時～三時三十分

場所 河原町教会地下ホール

受講料 二、五〇〇円(資料代を含む)
申込先 岡本田鶴子 電七八一(〇四九)

10日 社会福祉 田中健一司教

17日 ボランティア 広瀬夫佐子
(日本病院V協会々長)

24日 宗教 東門陽二郎師

31日 医学 加藤 清
(医学博士)

6月 7日 未定

14日 教育 山田 右師

21日 兄学と講話 吉田 芳子
(看護学院講師)

平和大学(WCRP)

講座のご案内

人口資源、公害、人間精神の退廃などに脅かされている「人間の平和」の為に私たちは何をなすべき、何をなし得るでしょう。世界宗教研平和会議日本委員会主催のこの講座がその目的を達成し、平和の礎となるよう皆様のご参加を期待します。

テーマ・平和によせて

・新共同体の倫理と宗教

講師 三宅歳雄(WCRP常任委員)

久山 康 関西学院々長

岸 英司 英知大学々長

日時 十月二十一日④ 二時～五時

場所 大阪普門館 大阪市西区京町堀一―五―一五

電(〇六)四四一―六〇二―

会費 五〇〇円

司教の足どり

(三月～五月)



16 聖母学院小学校卒業式

3月 新求道共同体みことば祭儀(郡山)

18 聖母女子短大卒業式

ウイチタの聖ヨゼフ誓願式(竜安寺)

19 聖母の家学園卒業式(四日市)

ときわハウス訪問

20 聖マリア養護学校卒業式(白梅町)

21 聖フランシスコ第3会員黙想指導(三条)

23 聖香油聖別ミサ

26 復活祭壮厳ミサ

29 宣教司牧司教委(東京)

30 アッシジ合唱団公演(勤労会館)

4月 31 比叡山延暦寺見学

2 南壮連研修会(宇治田原)

3 善きサマリア人誓願式(奈良)

8 諸宗教関係会合(一休庵)

11 福音宣教勉強会(九条)

12 司教評常任委、顧問会

13 カルメル司祭団来訪

17 南婦連総会ミサ(三条)

18 邦人司祭月例会

19 教理センター新理事会(三条)

20 幼きイエズス会管区長来訪

21 カトリック児童福祉各教区担当者集い(三条)

22 教区内男女管区長会(唐崎)

23 聖母学院中高増築新校舎祝別式

24 衣笠墓地委員会

26 司祭有志集い(唐崎)

29 国際宗教同志役員会(三条)

30 三重県信徒大会(津)

5月 1 安土セミナリヨ跡ミサ(滋賀)

3 司祭評総会

6 伏見桃山隣接教会合同ミサと運動会(聖母)

7 高山右近記念ミサ(大和榛原)

9 メリノール編集局長来訪

10 印度霊性セミナー(三条)

11 顧問会

14 カトリックボランティアスクールの開校

15 聖母カテキスタ会総長来訪

14 河原町堅信式

15 司祭月例会

1977年度

京都司教教区現勢調査報告(その2)

概況

面積 18094.32 km²
 (京都府・滋賀県・奈良県・三重県)
 人口 6,298,342
 信者総数 19,287
 信者実数 17,291
 求道者数 552
 教会数 49
 巡回教会数 11

人員構成

	邦人	外人
司教	2	
司祭	27	62
修道士	2	8
神学生	教区	2
	修道会	6
修道女	242	46
在俗会	20	

司祭・修道士 ()内は志願者数

教区	司祭		修道士	
	邦人	外人	邦人	外人
メリノール宣教会	22			1
オプスディ		1		
マリスト会	1	11		
聖ヴィアートル会	1	9	(1)	6
レデンプートル会		5	1	
男子エスコラピオス修道会		5		1
男子跣足カルメル修道会	4	1	1(1)	
ドミニコ会	1	3	(1)	
合計	29	62	2(3)	8

修道女 ()内は志願者

	邦人	外人
ノートルダム教育修道女会	57	13
聖母訪問会	46	
スヴェール愛徳および キリスト教的教育修道会	28(1)	2
幼きイエズス修道会	19	
ウィチタ聖ヨゼフ修道女会	18(4)	8
カルメル会	12(1)	
カロンデレットの聖ヨゼフ修道会	9	6
聖ドミニコ女子修道会	10	
聖心のウルスラ修道会	9	1
聖ドミニコの宣教修道女会	5	
メリノール女子修道会	5	10
コングレガシオン・ド・ノートルダム	4	
シャルトル聖パウロ修道女会	4	
カノッサ修道女会	3	1
善きサマリア人修道会	3	3
聖ウルスラ修道会	2	1
イエズスの小さな姉妹の友愛会	3	1
愛徳カルメル修道女会	3	
汚れなき聖母の騎士	2	
聖フランシスコ修道女会		
合計	242(6)	46

社会福祉施設

	数	男(男)	女(男)
病院	2	※ベッド数 311	
養護施設	1	14	39
保育園	7	391	374
老人ホーム	4	69	226
心身障害者施設	4	187	159
寮	6	37	79

伝道士(婦)

	男	女
信徒	12	14
修道者	3	18

教育施設 ()内は信徒数

	数	男	女
大学	1		1,076(17)
短期大学	1		309(6)
高等学校	9	1,552(28)	3,124(80)
中学校	7	716(17)	1,299(50)
小学校	3	786(39)	1,134(49)
幼稚園	26	2,465(74)	2,579(77)

タイプ・活版
オフセット } 各種印刷

今道印刷

〒602 京都市上京区天神筋一条下
 ル下堅町152
 電話(075)463-6024番

祝花、供花、式場装飾



JFTD加盟店

オリジナル フラワーデザイン

株式会社 桂花園

京都市西京区川島玉頭町41
 TEL (075)381-5389・391-0301

地域環境に調和した
 ユニークな都市創りをめざして

会 社 金山工務店

本社 大阪市東区内淡路町1丁目2番地
 電話 942-5461番(代)
 滋賀支店 滋賀県大津市皇子ヶ丘1丁目2-3
 電話 24-1816番(代)

四旬節「司教教書」を

どう受けとめたか！

御存知の様に司教教書は「教区の父」として、その家族にあてた親しい手紙である。四旬節に当って田中司教がお出しになった教書を私達はどう受留めたであろうか。

その中で司教は私達が目ざす三つの柱とも云うべきものを提示された。

その第一は聖書に親しむ。第二はミサを大切にす。第三は共同体作りに励む事である。その中で例えば聖書について云えば、自分の家に少くとも新約聖書が、ほこりをかぶらずに本棚の中央に置いてあるだろうか。つまりよく読まれているだろうか。(そんなものはないとは云えない筈)聖書の言葉が生活に生かされているだろうか。聖書研究会が忠実になされているだろうか。御ミサの中の御言葉が大切に聞かれ、よく黙想され生活の中に身についた力となっているか。

御ミサについて云えば日曜日のミサが義務ではなく自分の生命のかたとして是非必要なもの、富や食物以上に大切なものであるとの自覚がなされているか、更に共同体、兄弟的交わりの核になる事を自覚しているであろうか等、ごく当り前の事でありながら、当り前であるが故に見過されがちなこの指針についてもう一度謙虚に反省し、改心(心改める)の道を歩まねばならないのではなからうか。

三重県

三重県カトリック教会連絡協議会は、第八回壮年大会を今年の担当教会の久居教会とともに計画をす、めている。

久居教会では壮年大会実行委員会をつくり、昨年の大会の討論の傾向と司教の四旬節メッセージを受けて本年の大会テーマを「共同体」とし、特に祈りとみことばに生かされたキリストの共同体について研究を深め今後の教会活動の指針とするためにつぎのとおり計画をたてた。

とき 昭和五三年五月二十八日

ところ 久居カトリック教会

テーマ 「共同体」

プログラム

1. AM 10:00 ミサ聖祭

2. AM 11:30 講話

日本宣教師牧センター

1 所長 佐々木 博師

3. PM 1:30 分科会

① 共同体づくりにおける祈りの役割

② 共同体づくりにおけるみことばの役割

③ 共同体づくりにおける祈りの役割

4. PM 3:30 全体会議と折り

奈良県

奈良県下七教会では、今年の司牧評議会のテーマを、田中司教の四旬節教書を受け、「福音宣教による使徒職活動」と定め、十一月十二日の総会に向けて、奈良県全域を司牧しているマリリスト会司祭団の全面的な指導を受け、全県的にこの運

動を盛り上げることにあった。全信徒が、福音宣教に、具体的に、どのようにたずさわるべきかを探り、新しい使徒職にかかわって行くことを申し合わせ、次の五つの具体的指針を定めた。

(一)生活のあかしキリスト教徒として世の中を福音化し、神をあかしするため日々の生活を生きたる(二)布教あかしだけでなく、父なる神との出会いにまで人々を導くためにどうするか(三)信仰の確信一人に福音を伝えるにふさわしい固い信仰と福音の修得(四)要理教育一子女や後輩に自分の信仰を正しく伝えること(五)積極的な参加の方法(六)教会に対する奉仕(経済的自立)一信徒が教会において種々の役務に奉仕すること、特に教会の財政的確立に深い関心をもち、これへの積極的な協力

これらの指針の中から各教会で適当なものを選び出し、研鑽、討議、実践を重ねつ、教会でその成果を発表することになっていく。同一指針を選んだ教会間では共同の活動もする。八月には中間的検討をし、一層の促進をはかったり、軌道修正をしたりする。

特に奈良教会では全項目をとりあげることにし、「福音宣教」の冊子を各自購入毎月の地区集会でとりあげることをきめたと。すでに4月は、「生活のあかし」をとりあげ、福音宣教者イエズスに関する聖書の部分をわかち合いながら集会がすすめられた。

今や奈良県全体に福音宣教の熱気がわき上がろうとしている。(岩井洋)

津和野巡礼 — 小羊会 —



去る5月5日より3日間小羊会(代表伊達よしえ)の会員二十一名(車イス利用九名を含む身障者)と友の会会員三十名は待望の乙女峠巡礼に旅立った。このコースは萩、秋芳洞、松陰神社、津和野へと続く。津和野は生憎の雨で、乙女峠を登る時は一台の車イスに四人が介添して登り、他の観光客も手伝うというひとこまもあり感激させた。乙女峠のマリア聖堂前で野外ミサが同行の山田、フロイテル両師の司式で行われたがミサ中是不思議に雨はやみ晴天。下山してみると下はずっと雨だったとのことで聖母の特別の御はからいを感謝した。この巡礼は長崎、ヨーロッパに続いて三回目、今年には友の会会員で洗礼を受けないキリスト者と尊敬されている竹田氏によつて準備されたもので「旅することによって目を開き、社会との触れ合いによって身障者と社会との結びを深める」という小羊会の巡礼の目的を十二分に果たした旅であった。

祝

彦根教会復興三十周年

美しい城下町、琵琶湖畔の彦根に、はじめてカトリック教会が開設されたのは昭和10年9月、しかし火災、及び第二次大戦で当時の主任司祭ウイッテ師はアメリカに強制送還され教会も一時閉鎖された。戦後、昭和23年3月、現在の場所に教会が再建され今年で三十周年を迎える。

この三十年間の神の恵みを感謝して、記念誌の発行、司教司式記念ミサ(6月11日①)写真展等、盛り沢山の記念行事が計画されている。

奈良県に

二つのセンター開設

奈良県の人口増加率は日本一とか、その大和にこの5月二つのセンターがマリソト会の努力によって開設された。

一つは西大和ニュータウンの西大和カトリックセンター(カーティ師)で5月28日田中司教の司式で献堂式が行われた。この団地に住む信徒はもち論、すべての団地の人々の心の憩いの場となるように望まれている。

又、御所教会敷地内に心障児のための短期宿泊訓練所(ルーニィ師)が5月21日①開設された。これは奈良教会の心障児の通園施設オモチャライブラリーをより充実させるために作られたもので多くのボランティアの協力を呼びかけている。



時報復刊一周年に

連絡員名簿

左の表に掲げさせて頂いた方は「ゴミ箱行きの時報」から「待たれる時報」に転換するため(多少は無理押しして)御協力を仰ぐ人達です。
 1)ニュースを提供してもらう事、2)時報の編集に御意見を頂く事、3)行事表や時にはアンケートの収集に御協力を頂く事、4)その他です。
 老若男女、神父様やシスターのお名前も見えます。素晴らしい事ではないでしょうか。事務的なやりとりで終始せず何でもお話のし合える「仲間」になりたいと願っています。
 (編集部)

教会名	河原町	桂	北白川	衣笠	九条	小	西	西	西	伏	山	青	宇	亀	園	田	長	網	綾	岩	加	西	東	福
連絡係名	東門神父	大西肇	河村正雄	木村省三	中島健一	齊藤在道	田中安弘	柳本宣子	朝来壮一	花井拓夫神父	古川友一	今井章夫	中島容太郎	浅田神父	久保木俊明		森	梅原	山添節	西原次子	柴原工	松尾恵子	塩見俊一	
教会名	報恩寺	宮津	彦根	草津	長浜	大津	唐	御所	奈良	登美ヶ丘	富雄	大和郡山	大和高田	大和八木	伊勢	桑名	松阪	鈴鹿	津	上野	四日市	高野	桃山	
連絡係名	野田吉夫	山森秀雄	大原康園	辻信之	新谷喜美子	上田幸一郎	湯浅綾子	山家康次	山本喜美代	松山甚一	上村昌子	堀井千代子	運営委員会	田中実乗	木村誠	木下寛	坂口節夫	白峰圭子	丸山神父	寺西弘教				

一年を省みて

復刊一周年の今、改めて当初の決意を思い起すと同時に二年目以降の私達編集部のあるべき姿を考えてみたい。

「時報」は果たして待たれているだろうか。いやそれ以前に、読まれているだろうか。少なくとも現在の私達の持つ感触では嬉しい答はない。では何故……。

復刊に際してそれを最も強く望まれた司教様はこう言われた。「これを官報や公報のようにほしないでおうね」と。

お言葉の意味は、単に上意下達や情報の一方通行を否定する以上の内容を含んでいる。お言葉の私達に対する課題の中で、最も重要な事は、先ず「読まれる」紙面の構成であろう。そのためにはこの時報を読む人にとって読むだけの価値あるいはメリットがなければならぬ。それは心であつても、生活であつても、また自分達が関係するアクションへのヒントであつても、必要な時の適確な情報であつてもよいと思う。そうした紙面構成は教区内のミニコミ紙的なものとなり、きつと泥くさいものにならうが、本来、文化というものは泥くささの中から生じるものである。事実の羅列や説教で埋められた紙面が待たれる事はないように思われる。

これまでのところ私達は、この仕事をレールに乗せ、走り続ける事に力を注いできた。あちらこちらの教会で、この時報が積み残されたま、一向に減らない冷たい現実を知っている。次の一年の目標は「待たれる時報」をつくることであり、そのために全力をあげたい

(C.K.)

運命共同体

へんな編集部

編集部で働くスタッフは、いつも「開心」で開きなっております。一周年に際し多少の独断と偏見でサイドミラーに写してみます。

◆(MT)とは何者か。

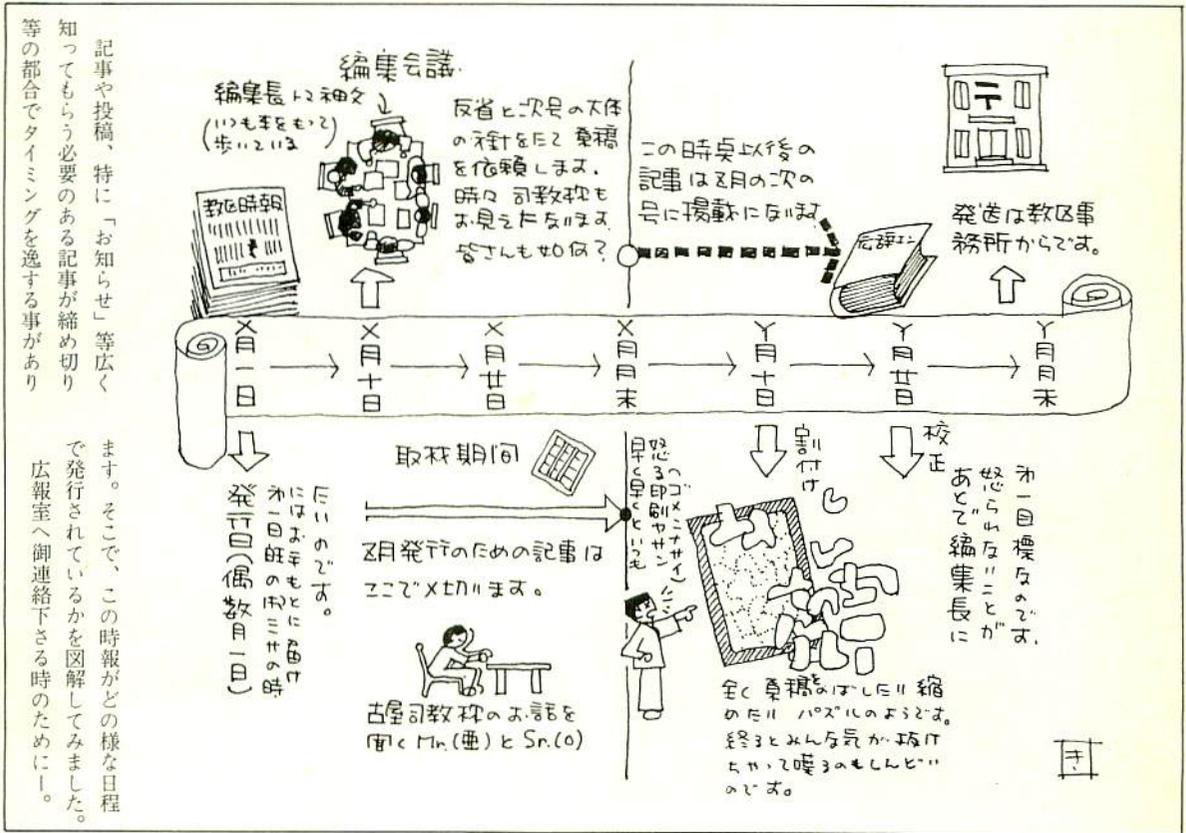
私達のボスマ・T師は、あまり身なりを構いません。いつも小脇に本をか、えていて、しかも大ていはいはポロポロの本です。紙面割付の時が本領発揮の時、記事の長さは長くも短かくも自由自在、御愛用の万年筆でサラ／＼と済ませてしまいます。この神父への最大の贈物は、図書券だそうです。私達の一致した考えでは彼はコメディアンになるべきではなかったのでしょうか。仕事に熱中されると一人言がおかしくて他の者は仕事にならないのです。おかしさ公害です。でも他の方のお話では彼の説教は一度は聞いておく必要があるそうです。編集長 バンザイ

◆(Y)とは何者なりや

私でしたら大丈夫が。が口ぐせの彼女はメリノール会のシスターです。昨年この時報の復刊の初会合で「途中で参ってしまふ方は今すぐ退席して下さい」と言われて、以来私達は金しぼりにか、つたようです。要理教育に情熱を傾けておられた、しばらく前にアメリカから帰られたのですが、一体、いつどこで休養しているのか誰れも知らないのです。

◆(O)とは何者でしょうか。

奈良はウルストラ会のシスターで、一時間、



半もかけて広報室に通勤しています。他の部員が、何だかんだと理屈をつけてサポータージエを決めこんでいる間、健気に「広報城？」を守ってくれています。締切間際に電話をかけてきて、おありたてる張本人は大体 Sn. O です。やさしそうでさやしやな彼女のどこから、勇気やバイタリテイが生じるのか。

◆(垂)とは一体何者ですか。

英知大学神学部(草津から通っています)学生というのがふれこみですが、本当は詩人の方です。この間結婚したばかりですが、その時も「たびだち」などと言う詩集を発行しました。昔のサトーハチローのようなホンワカムードの詩が埋まっています、カオカタチと大体合っています。(垂)新夫人から得た最新情報では大酒呑みだそうです。ビツクラです。もう一つおまけを言えば彼はお腹の空いている時以外は決して不気嫌にならないのだそうです。

◆(き)はさじむるではありません。

言行不一致、有言不実行、時間不安定、何一つあてにできないのが、(き)氏の正体です。ある方に指摘されて気がついたのですが、唯一の社会人です。なる程そのような事であれば、時報に要求されるニーズを、最もよく把握しなければならぬはずなんです。どの様な訳だか週末から日曜日は京都にはいないのです。彼の事務所が、もうかっているのか、倒産寸前なのか、誰にも(本人にも)わかっていないようです。この頁(き)

北は北山杉の産地を含む福井県の境まで、南は丸太町通り、東は織物業の多い新町通りより西側、西は嵯峨、嵐山という幅広い地域に点々と住んでいる神の教会、衣笠、山国、宇津より京都教区の皆様へ主イエズス・キリストの平和を。

さて、衣笠教会の特徴を申し上げると多様性に富んだ家族であることです。西陣の伝統産業に従事している方、農業、大阪通いのサラリーマン、大学生、その他移動の多い教会です。ほおっておけばバラバラになりうる教会でもあります。しかし、コリント書の「キリストの肢体」の教えに耳を傾ける時、霊の賜物を見事に表わしている家族です。



多様な家族より

教会は面白いから人が集まっているのではなく、神が兄弟として、世への愛の奉仕をする為にお召しになっておられると思います。衣笠では、この奉仕を各部（典札、教育、福祉、布教、広報、財務）を通してなされています。又司牧チーム（マケンナ、松本、肘井）のたよりなさから、信者の方々は教会の動きをよく把握して信徒委員会を中心に活動し、各地区で行なわれている家庭集会によって、横のつながりもだんだん深くなっています。信者の皆さんの活やくを期待している今頃です。

マケンナ神父
(衣笠教会主任)

衣笠教会 小教区の頁



みんなで家族的な

教会を創り上げよう

衣笠では昨年、ミサ参加者のアンケートをもとに、KJ法と言う手法でそれを整理要約し、教会の目標を造りました。今年も典札、教育、布教等の役員を集めての研修会（毎年3月21日）で、昨年のそれを見直し、討議の結果次の様な形にまとめ上げました。

- 全体目標 皆が力をあわせて家庭的な教会を創り上げよう。
- 布教 一人でもよいかから連れて来よう。
- 組織 一人一役、みんな一役交わり
- 運営 家庭集会の輪をひろげよう。教会家族の為に進んで時間を提供しよう。
- 霊的向上 ミサこそ主の家族の会食として大切に。

この中で全体目標は衣笠のそして全カトリックの悲願でしょう。四月号に桂教会の教会学校が紹介されましたが、衣笠も全く同様です。信者の先生方の大変な努力が実を結んで、聖体拝領の後で祝福を受ける幼い生徒達の嬉しそうな顔をこれ又嬉しそうな顔で見守る信者がふえて来たのは、少しでも家族的になって来たのだなあと楽しみで。

それから52年6月に始った家庭集会が、一年足らずの内に各地区で次々と実を結んで来た事も嬉しい事です。それぞれの地区で神父様を囲む、充実したものにしていくと色々努力されて居ります。これは前主任メドウイド神父の心をそのまま引きつがれたマケンナ主任神父の大きな功績の一つでしょう。始めての方が来られた時には、ミサ中に神父様が紹介されます。その度に御聖堂の中に拍手が湧き起ります。これも両神父の見事なチームワークの名残りを生かす素晴らしい光景であります。



又我々は祈禱書に頼り過ぎていたのを反省し、すべての会合は、その始めと終りを口語体で祈る様に習慣づける努力をして来ました。祈りが天のお父様との会

話であるならば、当然日常の話し言葉をを用いるべきだと言う昨年の目標が、ほぼ実践され始めた段階です。

教皇様が「福音宣教」と言う本を出されました。布教が我々の最高の務めである事を認め、布教部広報部が映画会、街頭伝道を計画しています。昨夏とクリスマスにメドウイド、マケンナ両神父の英断によって、御聖堂が「塩狩峠」「セントメリーの鐘」の素晴らしい映画劇場になった事は御存知の方もあってでしょう。今年もその実績の上一步前進を目指して一同頑張るつもりです。お手伝い下さる松本師の張り切り方も見事なものです。メドウイド師の穴理めとして立派に責任を果され、青年達はかりでなく一般信者も年に似合わず太腹だと喜ばれています。

最後になりましたが、司祭館付の肘井女史（独身）が、神父様は申すに及ばず信者一同の属のかなめ役でありまして、3年前信者が日曜学校を運営する様になったのも彼女の熱意がもてました。最近婦人会への料理教育が喜ばれています。

衣笠は今年奇しくも南壮連と南婦連の会長を送り出す事になり、大きな名譽だと思えます。だがこう言う指導者が実に孤独である事をひしひしと痛感します。最近色んな事があって、教会に来て人はそれぞれ悩みをもって大変だなあとなつくと思います。役員に限らず、とことん迄苦しんだ人、つきはなされた人がイエズス様を心から愛し涙し乍ら慕ってゆくのではありませんか。

木村省一

読者の頁「タマス」途上

教会学校について

小川和章

私が教会学校に関係するようになって五年目の新学期を迎えました。ここで、子どもの信仰形成と、それに与える大人の影響を考えてみようと思います。

親は、自分の子どもにどうして幼児洗礼を授けて頂いたのでしよう。きつとキリストの道を歩くことが一番良いと思っ

教へこたより

長浜教会 土曜学校より

私達長浜教会では五十二年度の土曜学校を終了するに当たり、去る三月十八日親の会を開き、父兄との話し合いをする事

私達教える側からは、教会の土曜学校は塾ではない。常に子供達に宗教道徳的な考え方を身につけさせ、自分で考え、

自分で行きたいと思うまでは、行かなくてもよいというような考えも出てきます。

こ、で、洗礼を授けた親の責任は、あいまいになってしまします。教会学校を通じ、

教会は信仰を深める一つの大事な「節」として初聖体の勉強をします。ここで御聖

体の意味、御聖体を預く喜びを子どもと共に考え、進んで教会に来る気持を育て

ます。更に大切な「節」として、堅信があります。ここでは、子ども達にキリスト

の兵士としての自覚を与え、今迄の親に与えられた信仰から、自分自身の信仰、

自分から求める信仰へと導きます。教会学校でもこの間に色々と子ども達と一緒

流と云った事だと云えば言い過ぎでしょうが。

これら子供達がどの様に受けとめていくかをあらわすいくつかの御意見を御紹介しましょう。

ある父兄は、「教会で聞いた話を子供は家でおばあちゃんに話しています。おばあちゃんはいつも「い、話やな」と喜んで聞いて下さいます。いつか家で法事を

に勉強し話し合っていますますが、週に一日しかなく、あとの六日間を子ども達は、

家庭、学校を中心とした社会で過します。この物質第一主義の社会で、目に見えない

信仰を親がどのように考えていくかが、子どもの信仰に大きな影響を与えていき

ます。子どもが、初聖体、堅信と信仰を形成していくのと同時に、親も自分の信仰を見直し、その信仰を生活の中で表して

いくことが大切だと思います。戦後、価値の基準があまりに変わったといわれていますが、私達は、キリストの模範があるのですから、自信を持って子どもに接していきましょう。(西院教会)

ある二年生の子供は自分から土曜学校に行きたいと云いました。「この子は朝新聞配達をやっているのです。寒い時

大変だと思うのですが、やりだした事は最後までやりとげるべきだと励まして

いるのです」とその御父兄は仰言っていました。土曜学校の出席の様子を見ると

はじめは来てもすぐにやめてしまう子供がいます。いろいろ理由があるのですが、土曜学校より、他の事が優先される

事が多いのです。「やりはじめた事をやりとげさせる」この精神を養っていたべき

角川露子

廻り鮭身をくわらせるはげしさよ
濃紅葉の流れの鮭の廻るみち
廻る鮭見つめ漁師の腕組める
産卵の鮭の尾鳍のたてる波
紅葉見の高雄の時雨とははげし

時雨と鮭

高山右近祭献上句より

青竹の祭壇組みて右近の忌
走り茶を右近に捧ぐ山のミサ

枯れぬ棕櫚曲がらぬ杉よ霊と水
幼な日の右近を偲ぶ路の里

げんげ田に句座と野点の隣りせり
城跡を語るものなし杉落葉

天地の創めの緑かくやとも
風かおる宇陀の里野に聖歌満つ

それら小さな成果かも知れません。たゞ、願わくは、この知識が単なる知識で終らず、身についたものとなり、又神に対する知識も身についたものになってくれる事を期待しています。以上土曜学校の学

年末にあたって聞いた反省会から得たいくつかの事を書かせていただきました。子供の宗教教育のむづかしさと大切さを身にしみて感じる今日此頃です。

長浜教会親の会報告書より

芽生え (七)

— 京都教区五十年をふり返って

古屋義久

新しい日本を築くために、経済的な復興も大切なことでしたが、それと共に次代を背負う子供たちに相応しい教育が必要なことだと私は考えていました。

それが、前号でお話した教育集会を契機に、私の教育に対する熱意も具体化していくのです。京都教区にもカトリック系の学校を作りたい、それも男女別学でそれぞれの特性が伸ばせるような学校をと構想を練っていました。そんなとき私の力となってくれたのは、教育集会のトラブルのとき、私と共に府庁まで出向してくれたマキロップ神父様でした。神父様は、ノートルダム教育修道女会と聖ヴィアートル修道会に京都での学校教育を依頼してくれました。両修道会は幾多の困難を顧みず、この事業を引き受けてくれたのです。

ノートルダム女学院が創立された経緯を少しお話すると、アメリカからシスターが京都に来たのが昭和二十三年のことです。日本語も話せず、西も東もわからないシスターたちの苦労は大変なものだったでしょう。それでも、多くの人たちの協力にささえられ、昭和二十七年四月に中学校がまず設立されました。昨年はちょうど創立二十五周年にあたり、盛大

なお祝いが行われました。最初の生徒数が百名程であったのに、会場を埋め尽した茶色の制服を見て、私の感慨もひとしおでした。

洛星中・高等学校も昨年、二十五周年を迎えました。こうして四半世紀の歩み



聖エリザベス病院

を振り返ると、京都にカトリック系の学校ができて本当に良かったと思うのです。ヴィアートル会やノートルダム、それに聖母学院のヌヴェール会が、京都で果してきている教育事業の成果には心から感謝しています。それに、先にも述べたマキロップ神父様の活躍ぶりも忘れられませぬ。聖母学院のために、伏見の軍の建物を買ったことができたのも、神父様の奔走があったからです。このように修道

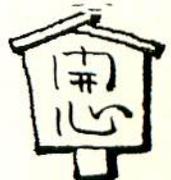
会やマキロップ神父様の努力によって、私の教育事業の構想も実現していきました。

学校と共に、終戦後できたものに聖ヨゼフ整肢園があります。これはウイチタ聖ヨゼフ修道女会によって作られたものですが、建設されるまでに紆余曲折がありました。と言うのは、当初ヨゼフ会はここに病院を建てる予定で、厚生省の認可も取っていました。しかし、京都の医師会から、そんな大きな医療施設をもう京都に作る必要はない、と待ったがかかったのです。そうこうしている内に、日本医師会まで乗り出してきて、病院建設の計画をやめさせようとなりました。ヨゼフ会はずでに土地も購入してあり、その対処に困っていたのですが、良い解決案が見つかりました。当時は、社会福祉の問題がやっ取りあげられるようになった頃でした。それで、総合病院を作るのが駄目なら、肢体不自由児のための施設を作ったらどうかということになったのです。これには医師会の反対もなく、それどころか、京都府から援助がありました。今から考えると、この案はいろいろな面で成功だったと思います。それは多くの問題にぶつかりながらも、いつも良い方へ導いてくださる神の摂理だったのでしょう。

このようにして、京都でも教育事業、社会福祉事業を通して、福音が宣べ伝えられ、実践されるようになったのです。

つづく

(題字も古屋司教)



時報が対話「おう」書くの手段なら、者も読む者も「互いにも」投稿者も編集者も、心を開けあ

◆傘をささずに小雨の中を歩くと、雨とお話しできます。雨と友だちになれます。濡れずに歩くことって実はつまらないことなんです。梅雨をどのように過しますか？ (亜)

◆ぼたん、しゃくなげ、あじさいと花の季節が続きます。大和路にはそんな花々を大切に育てている花の寺があります。どこかにカトリックの花の寺があれば教えてください。 (O)

◆母の心、父の心、昔は愛の代名詞になっていたのに、今はどうなっているのでしょう。五月、六月、その祝日に昔に戻れと願います。 (M)

◆堀られそこなった箱の根元の皮の間から触れると指も染まりそうな緑がのぞいています。6月号編集終りの一節がきまっても何だかのびたような感じ。 (Y)

◆五月は実に会議の多い月です。私には編集会議が会議ではなくバラバラの話の積み重ねのような気がしました。忙がしいという事は心を亡くすることだそうです。 (き)

お願い—編集部への希望、忠告、意見、などがありましたら、御遠慮なくお聞かせ下さい。(一同)